

The Journal of Global Studies

ICHINOMIYA NISHI SHS 13th Issue

August 2020

国際理解コース1期生が巣立ちました！

国際理解コースが設置されてから3年、この3月に初めてのコース生が卒業し、それぞれが選び取った進路に進みました。2年前、希望と勇気をもって、このコースを選び、仲間と助け合いながら様々な活動や授業、研究に全力で取り組み、1期生の自覚をもって受験勉強に取り組んだ36名は、コースにかかわった私たち全員の誇りです！！名古屋大学や大阪大学などの旧帝大をはじめ、全国各地の国公立大学、有名私立大学など、その進路は多岐に渡っています。コースで学ぶうちにやりたいことが固まった人、課題研究で調べた論文の著者の先生のもとに進学した人など、コースでの学びが十分に活かされていることを感じます。コースで芽生えた知的好奇心を大切に、大学でも実りある学びができることを願ってやみません。そしていつか、国際理解コースに、今度は講師として、後輩に何かを伝えにきてくれることを期待しています。

休校中もがんばりました！

新型コロナの拡大のため、3月から引き続き4月も休校となり、この新学期は波乱の幕開けとなりました。新しい国際理解コースのメンバーは1年生の12月から総合学習の時間に顔合わせをしているものの、4月の唯一の登校日にはやはり緊張の面持ちでした。休校中は通常の課題にプラスして、国際ならではの課題（パソコンやスマホでの英語学習、ニューズウィークのコロナ関連の記事のまとめ、

台湾についての課題図書など）が課されました。また、教育系SNSでバーチャルHRを作り、平日は毎日「本日の単語テスト」「リスニング」「WRITING」など、英語を中心に学習の指導がなされ、担任の先生からはメッセージが送られました。休校が延長されてからは、遠隔会議システムZOOMを用いた世界史と漢文、国際英語、校長先生による「比較言語文化」の授業（写真左）も行うことができました。オ



ンライン授業を実現するには、解決しなければならない様々な問題がありましたが、生徒の皆さんやご家庭の協力もありなんとか授業をすることができたと思っています。またITのスキルはこれから生きる生徒たちには必要不可欠なものです。その意味でも、オンライン授業ができたことは非常に有意義であったと感じています。

3年生の課題研究発表が行われました！

本来であれば、グループ内発表からクラス発表、さらには2年生への発表を経て、



一年生全体に発表を行うのですが、今年は休校が長引いたため、6月に2年生への発表をして、課題研究を締めくくりました。テーマは「待機児童問題」「日本の幸福度」といった国内の問題から、「ハグ文化」「カンボジアの医療ボランティア」などの国際的な話題や、「東京2020オリンピックでの集団

感染予防」などタイムリー（すぎる？）ものまで多岐にわたりました。11月末からという短期間での活動ですが、何度も構想を練り、大学の先生からもご指導をいただき、クラスでそれぞれのテーマを共有し互いに意見を述べ合う中で、よりよい研究となっていったと思います。当日は十分距離をとり、互いに向き合わないよう席を配置するなど、感染防止にも配慮しながら発表が行われました。

3期生本格スタート！

そしていよいよ3期生の学びが本格的に始まりました。今年だからこそできる活動を模索しつつ、どんどん新しい試みを取り入れていきたいと思っています。3期生の海外経験者には、自分の経験を発表してもらおう機会を作りました。また本校講師のレイシー先生とそご主人にお話を（もちろん全て英語）していただいたり、先日は本校卒業生の国連機関職員からオンライン講義を受けたりしました。秋には海外の学校とのオンラインセッションが予定されています。